

謹賀新年

笑顔と活力にあふれ、この町を誇りに思う
「心がふれ合う感動のまちづくり」
共に築いていきましょう



町民の皆さまには、希望と輝きに満ちた新年を迎え、健やかに過ごしのことと心からお慶び申し上げます。

町長就任以来、「安心して住めるまちづくり」、「農林業が元気で豊かな経験・自然を生かしたまちづくり」、「交流とふれあいのまちづくり」の実現に取り組んで参りましたが、皆さまからの温かいご支援もあって、この町らしい一体感のあるまちづくりが、あらゆる面でできています。改めて皆さまの積極的なまちづくりへの参画に感謝申し上げます。

さて、一昨年から世界的に猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症。日本全国でも感染拡大が止まらず、重症患者数も増加傾向にあります。そのような状況の中、コロナ禍に対応した働き方や暮らし方が見直され、リモートワークの普及により居住環境を都市部から地方に変える人が増えていると言われております。そんな現代社会に即応すべく、この町が持つ高度情報

報基盤がもたらす高速通信網や豊かな自然環境を周知しつつ、昨年4月に設置した移住コーディネートによる相談対応・情報提供などの支援体制強化を進めることで、将来的に新たな雇用創出や多様な暮らし方の提供の実現が期待できます。本町にはコロナと共生していく社会に必要な資源や人材はそろっています。この困難を好機と捉え、各関係機関と協働・連携を図りながら、コロナ禍に対応した事業を推し進めていきたいと考えています。

また、昨年9月には、静岡県オーガニック抹茶株式会社を青丘区に建設を進めておりました有機抹茶加工工場が完成し、本町産の有機抹茶が日本全国のみならず、世界市場で販売されていくことが可能となりました。本町を含む中山間地の茶業の一層の発展と後継者育成による持続可能な茶業の推進が大いに期待されます。

そして、昨年10月、鹿児島県で開催された全国茶品評会では、藤川区の相藤直紀さんが普通煎茶4級の部で1等1

席農林水産大臣賞を獲得したことをはじめ、町の茶業関係者の皆さまが一体となって良質なお茶作りに取り組んだ結果、7年ぶり15回目の産地賞の栄誉に輝き、お茶のまち「川根本町」を強く県内外に証明することができました。川根茶を取り巻く情勢は厳しく推移していますが、出品者をはじめそのご家族、支援をされた方々のご努力が川根茶を将来につないでいくものと確信しております。改めて関係者の皆さまのたゆまぬ研さんや未来に川根茶をつなぐんとするご意志に敬意を表します。

結びになりますが、本年も引き続き、町民の皆さまの町政全般に対するご協力と参画・協働をお願いいたします。そして、令和3年が皆さまにとって、希望に満ち、飛躍する1年でありますことをご祈念申し上げます、新春のごあいさつといたします。

川根本町長

鈴木敏夫